

# 第2学年1組 生活科学学習指導案

授業日 平成28年7月1日(金) 2校時  
授業者 附属新潟小学校 教諭 三星雄大  
会場 2年1組教室

## 1 単元名 いっしょに大きく… - ぼくもわたしもおやさい名人 -

## 2 本単元の価値

本単元は、「小学校学習指導要領解説生活編」内容(7)、(9)目標(4)を受けて設定した。

### 内容(7)

動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。

### 内容(9)

自分自身の成長を振り返り、多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことをなどが分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。

### 目標(4)

身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し、考えることができるようにする。

本単元には、大きく三つの価値がある。

一つ目は、他教科等で育む資質・能力が学習過程の中で発揮されることにある。具体的には次の資質・能力である。

#### ① 道徳の知識や技能の発揮(当校の資質・能力①にあたる)

道徳教育の要としての道徳の時間の指導との関連を考慮し、道徳の時間と生活科の時間が相互に効果を高め合うことが大切であるとされている。例えば、継続的に世話をし繰り返しかかわる過程で、生命あるものを大切にすることを育む価値ある体験となる。この学習と並行して道徳で「生命を大切にすること」という道徳的価値をとらえさせる。すると子どもは、生活科の学習の中で生命の尊さを実感するのである。

#### ② 各種教育(食)の知識や技能の発揮(当校の資質・能力①にあたる)

食育の視点からも本単元は価値がある。第二次食育推進基本計画(2011)には、「子どもの頃に身に付いた食習慣を大人になって改めることは困難であり、子どものうちに健全な食生活を確率することは、(中略)生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育てていく基礎となる」とある。生活科の目標には、「生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ」とある。「規則正しい食生活」という、生活上必要な習慣を身に付けることにつながる「食育」を扱うことは、価値がある。また、生命の尊さを実感する学習活動を充実することを挙げている。食にかかわる中で、食べ物の命をいただいていることに気付くことが、生命の尊さの実感につながると考えられる。

#### ③ 国語の知識や技能、見方や考え方の発揮(当校の資質・能力①③にあたる)

国語で「かんさつ名人になろう」(光村図書)という学習がある。これは、色や形や大きさ等の視点を基に記録文を書く学習である。子どもは、野菜を観察する中で葉や茎や実に着目する。そして、それらがどのような色や形や大きさなのかを継続的に記録していく。子どもの記述を価値付け、シェアリングを行うことを通して、視点を基に観察すると野菜のことがよく分かると自覚することができる。

また、「お話のさくしゃになろう」(光村図書)という学習がある。この学習では、経験したことや想像したことなどから書く内容を決めて「はじめ・中・おわり」のまとまりのあるお話を書くことができることが目標である。「はじめ」を野菜の苗を植えたとき、「おわり」を野菜の収穫として書かせる。「中」は、書きためさせた「やさいけんきゅうにつき」を基に自分で考えさせる。4つの視点を与えてお話を書かせることで、野菜とのかかわりを想起し、様々な資質・能力が発揮される。具体的には次の通りである。

- ・野菜の変化…資質・能力 国①
- ・自分の行為…資質・能力 生①③ 道①
- ・自分の気持ち…資質・能力 道①食③
- ・野菜の気持ち…資質・能力 生①

お話を書かせることの価値は、生活科の目標(4)と関連する。目標(4)では、表現の価値について、思いや願いを表出させることと、表現によって思考を深めることの両面があることが示されている。表現方法を工夫することで、子どもの気づきを自覚させる有効な働き掛けになる。

二つ目は、理科につながる知識や技能の獲得させることができることである。理科では、「生命」についての概念を柱とした内容がある。その中に、生命の連続性についての見方や考え方を養うことが重視されている。子どもが継続的に世話をした野菜に命を感じることは、理科につながる気づきである。

三つ目は、生活科で重視してきた成長への気付きを獲得させるのに適していることである。野菜の栽培は長期にわたる。自ら選んだ野菜を植え、その生長を見守りながら育て、実りを待つという一連の栽培活動の中で、野菜に愛着をもつようになる。愛着をもっているからこそ、野菜の様子や変化をつぶさに観察する。このかかわりの中に子どもの成長を見取ることができる。

### 3 本単元で目指す姿

私は、本単元において、**野菜の育て方を比較し、できるようになったことや分かるようになったことに気付く子ども**を目指す。具体的には、「最初は赤ちゃんだったトマト。今では、立派な大人になったよ。一人で大きくなったんじゃないよ。のどが渴いたら水をあげて、おなかがすいたら肥料をあげて、脇芽摘みもしたよ。最初は分からないことばかりだったけど、野菜の育て方がたくさん分かったよ。〇〇ちゃんありがとうってトマトも言っているよ」等と絵本に表現する姿

### 4 本単元で育む資質・能力

単元カード参照

### 5 指導計画 全22時間 (66Q)

単元カード参照

### 6 指導の構想

単元の導入では、間違えている野菜のイラストを提示した。子どもは、イラストと本物の野菜とのズレを感じ、野菜について知っていることを発表した。さらに、実際の野菜と野菜の苗を提示した。この場面では、野菜や野菜の苗をさわらせた。そして、「野菜の苗から野菜ができるまでの間を詳しく知っている人はいますか」と問うた。子どもは、野菜のことは知識として知っている。しかし、野菜の苗から野菜ができる過程を見たことがない子どもが多く、興味をもち始めた。そこで、野菜を育ててみようとして投げ掛けた。子どもは、「自分でお世話をして、おいしい野菜をつくりたい」と目的を共有して野菜の栽培活動が始まった。子どもが育てている野菜は、なす、トマト、ミニトマト、きゅうり、えだまめ、オクラである。

子どもに、栽培活動のアドバイザーとして、新潟市西区で農業を営む原明彦さんに出会わせた。原さんには、植えるとき、脇芽摘みなど成長過程で必要なお世話を教えてもらうときと野菜の変化のポイントで来ていただいた。おいしい野菜をつくりたいと願っている子どもは、原さんに育て方について進んで質問した。原さんは、子どもの質問に丁寧に答えてくださる。そのような原さんに親しみをもち、原さんのことを野菜のプロだと思っている(他教科との関連は、単元カードや授業資料を参照)。

植えてから1ヶ月半が経過した。子どもは、継続して自分が選んだ野菜にかかわることを通して、愛着をもっている。また、野菜の色、形、大きさ等の目に見える特徴や変化には気付いている。そして、野菜も自分と同じ命があることをとらえている。そのような子どもに、次のように働き掛ける。

#### 働き掛け1

**野菜は順調に育っているかを問い、あこがれを抱く事実を提示する。**

問いをもたせるための働き掛けである。

子どもは、日々のお世話の中で「葉っぱの色がいつもと違う。どうしたらいいのだろう」等と困っている。また、「実が大きくなる。なぜだろう」等と自分では解決策が分からないことがある。そこで、野菜は順調に育っているかを問う。子どもは、「大きくなってきている。でも、困ったこと(分からないこと)がある」等と発表する。そして、他の子どもにも困ったことや分からないことがないかを問い返す。困っている内容は、「虫被害」「葉っぱがしおれている」「葉っぱや茎の色が変である(色が違う、斑点がある)」等である。子どもはこのままでは、困っていることや分からないことを解決できない状態になる。

そこで、あこがれを抱く事実を提示する。子どもがあこがれを抱く事実とは、原さんの畑や原さんが育てた野菜のことである。原さんの畑は、たくさんの野菜が元気に育っている。子どもは、自分たちが育てている野菜よりも数がすごく多いことに驚く。また、原さんが育てている野菜を提示する。子どもに原さんが育てた野菜にふれさせたり、食べさせたりする。すると子どもは、色や形が美しいことやおいしさに驚きを感じる。そして、これからどうしたいかを問い、作文シートに書かせる。すると子どもは、「ぼくも原さんのように野菜を上手に育てられるようになりたい。でもどうしたらできるのだろう」等と問いをもつ。

そして、原さんの畑に実際に行きたくてどのようなお世話をしているのか見てこようと投げ掛ける。子どもは、原さんの畑に行きたいと願う。そのような子どもに次のように働き掛ける。

#### 働き掛け2

**「まねっこ活動」(原さんと一緒に日常的なお世話に取り組ませる活動)を行わせ、分かったことや考えたことを問う。**

問いの解決に必要な情報を収集させるための働き掛けである。

子どもに問いを解決させるためには、自分の野菜の育て方と原さんの野菜の育て方とを比較させる必要がある。人間と同じ命がある野菜は、追肥、脇芽摘み、水やりを必要とする。お世話は、葉っぱの形や色を見て判断することが上手に育てるコツだと原さんは言う。農家の方のお世話の仕方を体験を通して分かることで、問いが解決できる。日常的なお世話とは、子どものために特別に設定したものではなく、日々原さんが行っているお世話のことである。「まねっこ活動」を行わせる前に、どのようなことを知りたいかを学級で確認する。活動させる前に視点をはっきりさせておくこ

とで自分の育て方との比較を促しやすくするためである。すると子どもは、自分のお世話の仕方と同じところと違うところをはっきりさせたいと発表する。

今回は、追肥、脇芽摘みを一緒に行わせる。水やりは、機械であげているため見学だけさせる。農薬を使ったり温度管理をしたりするお世話もあるが、子どもに取り組みさせるには難しい。農家のお世話から子どもが真似できるのは前述の三つである。原さんと一緒に日常のお世話に取り組みせると共に野菜がどのような状態のときどのようにそれぞれの仕事を行うのかを話してもらおう。これらの仕事を体験させることの意味は次の通りである。

追肥…実ができてはじめてのときから必要になるお世話である。現在、子どもが育てている野菜のほぼ全てに花や実がなっている。したがって、子どもが育てている野菜に必要なお世話である。追肥が必要かどうかは、葉っぱの形や色、実の大きさが関係している。オクラを例にすると、右写真のようなときには栄養不足であるため追肥が必要となる。この事実子どもは気付くことができない。追肥をしすぎると根焼けを起こしてしまう。野菜の状態を見てあげる必要があることに気付かせる。



脇芽摘み…2回目に原さんから来ていただいたときに脇芽摘みの意味は教えてもらった。しかし、自分では脇芽が分からない子どもや脇芽ではないものも取ってしまった子どもがいる。脇芽摘みは病気の予防や実の生育にかかわる重要な仕事である。

脇芽摘みを適切に行っている野菜を見ると、実のなり方がよいことに気付く。

水やり…最も基本的なお世話である。しかし、水をあげすぎている子どもや水やりを忘れている子どもがいる。適切に水やりをすることで実のでき方が違う。自分が育てている野菜だけを見ていても分からない。そこで、原さんが育てている適切に水やりがされている野菜を見ることで、適切な水やりの必要性に気付かせる。

子どもは、「まねっこ活動」を通して、自分の野菜の育て方と同じところや違うところに気付く。活動後は、分かったことや考えたことを問い、作文シートに記述させる。子どもは、「追肥をしたことがなかったけど、野菜もお腹がすくから必要なお世話なんだ」(☆資質・能力 生③道①食①)等と自分の野菜の育て方と原さんの野菜の育て方とを比較して同じところや違うところに気付く。しかし、この段階では、どのようなお世話が自分の野菜にとって必要なのかわからない。

#### 働き掛け3

**解決方法を問い、自分の野菜の育て方と原さんの野菜の育て方との共通点や相違点を見いださせる。**

問いの解決に必要な情報を判断させるための働き掛けである。

まず、「原さんのように野菜を上手に育てられるようになりたい」という課題意識を確認し、どうしたらこの課題を解決できるかを問う。子どもは今までの生活科の学習の経験を想起し、自分の野菜の育て方と原さんの野菜の育て方とを比べればよさそうだと考える。さらに、どのような道具を使えばよいかを問う。子どもは、今までの学習の経験からベン図やウェビングマップを用いるとよいことに気付く(☆資質・能力 生②)。そこで、ペアで決めた方法で、自分の野菜の育て方と原さんの野菜の育て方とを比べさせる。子どもは、「どちらも野菜の命を考えて大切にしている」(☆資質・能力 道①④ 生①③)等と共通点に気付く。また、「葉っぱの色や形で肥料をあげるか考えている」(☆資質・能力 生③)等と相違点に気付く。

その後、自分の野菜の様子を確認させ、これからどのように育てたいかを問い作文シートに記述させる。子どもは、「僕の野菜を見てみたらお腹が減っていることが分かった。だから、追肥をしてあげたい」等と、記述する。ここでは、自分の野菜の育て方と原さんの野菜の育て方とを比較して見いだした方法を自分の野菜と関係付けていることをねらう。

授業後、見いだした野菜の育て方を実行する場面を設け、1週間程度試させる(追肥や脇芽摘みの効果は、1週間程度経たないと分からないため)。

#### 働き掛け4

**野菜を上手に育てられるようになったかを問い、物語の形式で栽培活動を振り返らせる。**

単元を通して自分ができるようになったことに気付かせるための働き掛けである。できるようになったことに気付かせるためには、以前の自分の野菜の育て方と今の自分の野菜の育て方との比較から違いに気付かせる必要がある。まず、野菜を上手に育てられるようになったかを問う。上手に育てられるようになったと感じている子どもには、理由を問う。子どもは、栽培活動を始めたときを想起して「最初は、水やりを忘れてしまっていた。でも、実ができてからは毎日水やりができたから」等と以前の自分と比べてできるようになったことを発表する(☆資質・能力 生①③)。上手に育てられるようになっていないと感じている子どもには、「〇〇さんが上手に育てられていないと言っていますが、皆さんはどう思いますか」と投げ掛ける。子どもは、毎日のお世話で友達の行為もよく見ている。子どもは、「〇〇さんは、脇芽摘みを頑張っていたよ」等と、友達の頑張りを認める。認められた子どもは、自分ができるようになったことを自覚する。

その後、単元の振り返りとして物語を書くことを提案する。物語には時系列で自分と野菜とのかかわりが描かれる。そこに、「野菜の変化」「自分の行為」「自分の気持ち」「野菜の気持ち」を表現させる。この4点を書かせることでこれまでの野菜の育て方や他教科での学びを想起して、様々な資質・能力を発揮する。具体的には、野菜の変化(資質・能力 国①)、自分の行為(資質・能力 生①③ 道①)、自分の気持ち(資質・能力 道①食③)、野菜の気持ち(資質・能力 生①)である。この

ようにすることで、野菜の育て方を比較し、できるようになったことや分かるようになったことに気付く子ども（Cn）になる。

## 7 本時の構想（本時20/22時間）

### (1) ねらい

自分の野菜の育て方と原さんの野菜の育て方を比較し、野菜を上手に育てるために必要なお世話を見いだす。

### (2) 主張（展開）3Q（45分）

#### このように子どもに（C0）

- ・おいしい野菜を作って自分で食べたり、家族に食べさせたりしたいと考えている。
- ・自分が育てている野菜の色、形、大きさ等の目に見える特徴や変化に気付き、愛着をもっている。
- ・野菜にも自分と同じ命があることをとらえている。

#### このように働き掛けると【働き掛け1-①】

- 野菜は順調に育っているかを問う。
  - ・説明「野菜の苗を植えたのが5月11日でした。1か月半が経ちましたね」
  - ・発問「自分の野菜は順調に育っていますか」

#### このようになり（C1-①）

- 自分が育てている野菜について困っていることや分からないことを発表する。
  - ・実はできてきたけど、葉っぱの元気がないことで困っています。
  - ・アブラムシが大量に発生していて困ってます。
  - ・葉っぱに点々がついていてどうしたらいいのか分かりません。

#### このように働き掛けると【働き掛け1-②】

- 原さんの畑の写真を提示する。
  - ・説明「皆さんは、困っていることや分からないことがあるようですね。実は、原さんからいいものをもらってきましたよ」
  - ・指示「これを見てください。これは、原さんの畑の写真です」
  - ・発問「気付いたことや分かったことはありますか」
- 原さんの畑で育った野菜を提示し、食べさせる。
  - ・指示「写真からたくさんの方に気付きましたね。あと、これももらってきました。原さんの畑で育てた野菜をさわったり食べたりしていいですよ」
  - ・発問「原さんの畑で育てた野菜をさわったり食べたりして気付いたことや分かったことはありますか」
  - ・指示「これからどうしていきたいですか。作文シートに自分がどうしていきたいかを書きましょう」
  - ・発問「皆さんの作文シートを読むと、原さんの野菜の育て方に興味をもっているようですね。原さんの畑に実際に行って『まねっこ活動』をしてきませんか」

#### このようになり（C1-②）

- 原さんはどのようにして野菜を育てているのか疑問をもつ。
  - ・原さんの畑は、広い。こんなにたくさん野菜をどうやって育てているのかな。
  - ・水やりが大変そうだな。原さんはどんなお世話をしているのかな。
- 原さんのように上手に野菜を育てられるようになりたいと願う。
  - ・原さんが作った野菜はすごくおいしい。
  - ・原さんのように野菜を作れるようになりたい。
  - ・原さんの育て方にはきっとヒミツがあるはずだ。だから、その育て方を知ってトマトを育てるプロになりたい。
  - ・野菜を上手に育てたいから原さんのところに行って『まねっこ活動』を試してみたい。

#### このように働き掛けると【働き掛け2-①】

- 原さんの農家に行って知りたいことを考えさせる。
  - ・発問「原さんの畑に行って知りたいことは何ですか」
- 「まねっこ活動」（原さんと一緒に日常的な仕事に取り組みせる活動）を行わせる。
  - ・説明「原さんの畑に来ました。原さんの説明をよく聞いて、一緒に仕事をしてみましょう」

#### このようになり（C2-①）

- 原さんの農家に行って知りたいことを考える。
  - ・すごくおいしい野菜を育てている原さんだからきっと、ぼくたちと違うことをしているはずだ。だから、どのようなお世話をしているのかを知りたい。
- 「まねっこ活動」（原さんと一緒に日常的な仕事に取り組みせる活動）を行う。
  - ・野菜もお腹がすくのか。だから、追肥が必要になるんだ。
  - ・一つ一つを見て脇芽摘みをするのか。ぼくは、教えてもらったけどしていなかったな。
  - ・水やりは、毎日じゃなくて葉っぱの様子を見ながらするのがいいんだ。

### このように働き掛けると【働き掛け2-②】

- 「まねっこ活動」(原さんと一緒に日常的な仕事に取り組みさせる活動)を行い、分かったことや考えたことを問う。
  - ・発問「原さんと一緒に仕事をしてみて、分かったことや考えたことありますか。作文シートに書きましょう」

### このようになり (C2-②)

- 作文シートに分かったことや考えたことを書く。
  - ・野菜にも命があるから、水だけだとお世話が足りないんだ。 ☆道①食①
  - ・今まで追肥をしたことがありませんでした。でも、追肥をしないと実に栄養がいかないことが分かりました。 ☆生③

ここから本時

### このように働き掛けると【働き掛け3-①】

- 課題把握をさせる。
  - ・説明「昨日は、原さんの畑で『まねっこ活動』をしてきましたね」
    - ※ 活動時の写真を提示する。
  - ・発問「皆さんはどうして原さんの畑でお仕事をしたのですか」
  - ・説明「そうでしたね。昨日は、黒板にあるようなお世話をしてきましたね。そして、お話も聞かせていただきました」
  - ・説明「今日、みんなで考えていくことは『どうしたら野菜を上手に育てられるのだろう』(以下：二重丸)です」
    - ※ 2年1組では、その時間で考える課題を二重丸で表している。
- どうしたら解決できるのかを問う。
  - ・発問「どうしたら二重丸を解決できそうですか」
    - ・補助発問「どうしてそのように考えるのですか」
    - ・補助発問「〇〇さんが～を使えばよさそうだと言っていますが、皆さんも同じですか」
  - ・指示「分かりました。今日はペアで考えます。ペアでどの方法を使うのか相談しましょう。理由も言いましょ」
  - ・指示「ベン図を使うペアはどれくらいいますか」
    - 「ウェビングマップを使うペアはどれくらいいますか」
    - 「2つとも使うペアはどれくらいいますか」

### このようになり (C3-①)

- 原さんと一緒に日常的なお世話に取り組んだ理由を考える。
  - ・原さんのように野菜を上手に育てたいからです。
- 比較して同じところや違うところを考えるための方法を選択する。
  - ・ベン図を使えばできそうです。だって、原さんの育て方と同じところや違うところ分かるから。 ☆生②
  - ・まず、ウェビングマップを使います。その後、書いたことをベン図にまとめていきます。 ☆生②
  - ・どの思考ツールを使うのかを挙手する。

### このように働き掛けると【働き掛け3-②】

- ペアで選択した思考ツールを基に考える。
  - ・指示「ペアで考えた方法を使って始めましょ」
    - ※ 子どもからの質問には、答える。例えば次の質問が考えられる。
      - ・「やさいけんきゅうにつき」を見ていいですか。→よいと答える
      - ・自分の野菜を見に行っていていいですか。→よいと答える
      - ・昨日、原さんが提示した野菜の写真が見たい。→写真を見せる
  - ※ 机間指導では、次のような言葉を使って支援する。
    - ・補助発問「どうしてそのように考えるのですか」
    - ・補助発問「どこからそのように考えるのですか」
    - ・補助発問「あなたは、二重丸の解決に必要なことはどれだと思いますか」

### このようになり (C3-②)

- 自分の野菜の育て方と原さんの野菜の育て方とを比較し、共通点や相違点に気付く。
  - ・自分たちも原さんも野菜の命を考えて大切にしている。 ☆生③道①食①
  - ・原さんは、葉っぱの色や形で肥料をあげるか考えている。でも、自分はしていない。 ☆生③国①
  - ・ぼくは、水やりを忘れてしまうことがあるな。でも、原さんは野菜の様子を見てあげている。 ☆生③国①
  - ・原さんは、一つ一つの野菜をよく見て脇芽摘みをしているね。 ぼくは、習ったときははしていたけど、一度きりだった。 ☆生③国①

### このように働き掛けると【働き掛け3-③】

- これからどのように育てたいかを発表させ、作文シートに記述させる。

- ・発問「ペアで話し合ったことを発表してください」
- ・補助発問「〇〇さんについて話せる人はいますか」
- ・補助発問「どこからそのように考えたのですか」
- ・補助発問「どうしてそのように考えたのですか」
- ・指示「これからどのように野菜を育てたいですか。また、どうしてそのように思うのか理由を書きましょう。作文シートにまとめましょう」

### このようになる (C3-③)

- 自分の野菜に必要なお世話を見いだす。  
※働き掛け3-②で考えたことを発表する。

- ・原さんの育て方と比べてみたら、僕の野菜を見てみたらお腹が減っていることが分かった。だから、追肥をしてあげたい。 ☆生③
- ・原さんもぼくも命を大切にしているけど、お世話の仕方が違った。今までは知らなくてできなかった。これからは葉っぱの色と形をよく見て、水やりをしたり追肥をしたりしたい。 ☆国① 道①食①

本時ここまで

### このように働き掛けると【働き掛け4-①】

- 野菜を上手に育てられるようになったかを問う。
  - ・発問「野菜を上手に育てられるようになりましたか」
  - ・補助発問「どうしてそのように思うのですか」
  - ・発問「〇〇さんが上手に育てられていないと言っていますが、皆さんはどう思いますか」

### このようになる (C4-①)

- できるようになったことや分かるようになったことに気付く
  - ・上手に育てられるようになりました。だって、葉っぱの色や形をよく見て肥料をあげたり水をあげたりできるようになったからです。
  - ・〇〇さんは、脇芽摘みをしていなかったけど、『まねっこ活動』の後に自分で脇芽摘みをしていたよ。それがすごい。 ☆生①

### このように働き掛けると【働き掛け4-②】

- 視点を与えて物語の形式でまとめることを投げ掛ける。
  - ・指示「最後に、『いっしょに大きく…』を物語にまとめましょう。書くことは、野菜の変化、自分がしたお世話のこと、自分の気持ち、野菜の気持ちです」

### このようになる (Cn)

- 物語を書いてできるようになったことに気付く。
  - ・最初は手の大ききくらだったトマト。今では、立派な大人になったよ。一人で大きくなったんじゃないよ。のどが渇いたら水をあげて、おなががすいたら肥料をあげて、脇芽摘みもしたよ。最初は分からないことばかりだったけど、野菜の育て方がたくさん分かったよ。〇〇ちゃんありがどうってトマトも言っているよ。 ☆資質・能力 国① 生①③ 道①食①

## 7 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したC nになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ③ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け4を受けて、発言やつぶやき、物語の記述から検証する。  
C nの要件は次の通りである。  
国①、生③、道①食①の資質・能力が発揮され、生①のようにできるようになったことや分かるようになったことに気付いている
- ②-1 働き掛け2を受けて、~~~~~のような資質・能力を発揮しているかを作文シートの記述から検証する。
- ②-2 働き掛け3を受けて、~~~~~や~~~~~や~~~~~のような資質・能力を発揮しているかを発言、挙手、つぶやき、思考ツールへの記述、作文シートの記述から検証する。
- ③ ワークシートの記述、物語の記述、発言、VTR、「やさいうた」、「やさいけんきゅうにつき」の記述から検証する。